

令和元年6月15日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02196

研究課題名(和文) 現代文学・美術にみるおとぎ話の表象

研究課題名(英文) Representations of Fairy Tales in Contemporary Literature and Art

研究代表者

村井 まや子 (Murai, Mayako)

神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号：20347769

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：多様な文化が絡み合い拮抗する現代のグローバル社会における文学・美術の創出と受容を、伝統的なおとぎ話の表象に着目して文化横断的・領域横断的な視点から比較分析することで、国際的な文化研究の分野に根強く残る西洋中心的思考を問い直し、より多文化的な視点を含む方法論へとリオリेंट(再方向づけ)する批評活動を行なった。さらに、本研究によって得られた知見を活かした、芸術的な創作活動とのコラボレーションを通して、現代社会におけるおとぎ話の新たな文化的意義を創造的に探究した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果の学術的意義は、これまで西欧を中心に展開されてきた国際的なおとぎ話研究の知見を踏まえ、非西洋文化圏の視点を取り入れた新たな批評の枠組みを提示し、当該分野の研究の多文化的な転換を促したことにある。研究成果は国際学会での発表、日本での国際学会の主催、英語圏の学術誌への寄稿、アメリカとイギリスでの単著および共著の出版等を通して広く公開し、国際的に反響を呼んだ。社会的意義は、現代のグローバルなおとぎ話文化の創出と受容について、従来の西洋中心的傾向とは異なる見地からの解釈を提示することで、より多文化的かつ通文化的な文化理解を促進し、多文化共生社会の実現に貢献したことにある。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to dis-orient and re-orient the Euro-American-centric tendency still dominant in global fairy-tale studies today by analysing fairy-tale adaptations in contemporary literature and art from transcultural and transdisciplinary perspectives. It also creatively explored the new cultural significance of traditional fairy tales in contemporary society through collaborations with writers and artists.

研究分野：おとぎ話、表象文化、現代文学、現代美術、比較文学

キーワード：おとぎ話 表象文化 現代美術 国際比較 民話 動物 ジェンダー 絵本

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

欧米を中心とするおとぎ話研究の分野では、1980年代以降、異文化・異言語間の交流に着目する国際的観点からの研究の重要性が増すとともに、従来の民話と文学研究の枠組みを超えて、ポスト構造主義以降の文学批評理論、文化社会学、フェミニズム、精神分析理論、映画研究、カルチュラル・スタディーズ等、複数の学問領域を横断する新たな研究手法の可能性が探究されてきた。同時に、作家やアーティストによるおとぎ話の創造的な再解釈も活発になり、イギリスのアンジェラ・カーターによるおとぎ話の再話集 *The Bloody Chamber* をはじめとして、「赤ずきん」や「美女と野獣」などのヨーロッパの古典的なおとぎ話を現代の視点から書き換える文学、美術、映像作品が相次いで発表され、批評と創作とが互いに刺激し合いながら、おとぎ話の伝統を批判的に継承し発展させてきた。

一方日本でも、「赤ずきん」や「美女と野獣」などの西洋のおとぎ話は広く浸透し、現代文化の重要な一部を形成している。しかし、現代文化におけるその受容と変容のあり方については、西洋文化圏との比較でこれまで体系的に論じられることはなかった。これは未だ西洋中心的傾向が強い文学・文化研究の分野が抱える問題であると同時に、日本を基盤とするおとぎ話研究における国際的・学際的な視点の軽視と国外への情報発信の不足にも起因するものと考えられる。さまざまな分野で異文化間の境界を越えた相互理解の試みがなされる中、本研究は現代文学・美術にみるおとぎ話の表象に着目し、以下の二つのテーマを中心に国際的に研究を進めてきた。

- (1) 英語圏と日本の現代文学・美術作品の中のおとぎ話(特に「赤ずきん」)の表象の、主にジェンダー研究の視点からの比較分析
- (2) おとぎ話という伝統的な語り形式が、現代の視覚芸術(絵画、写真、インスタレーション、映像作品等)に与える影響の分析

上記のテーマについて海外の研究者と討議を重ねる中で、文学および民話研究の分野において、日本を含む非西洋文化圏の視点が未だ周縁的な存在に留まっていると実感するようになったことが、新しいおとぎ話研究の手法を用いて国際的な文脈の中で現代の日本文学・美術の解釈を試みる本研究計画の着想につながった。

2. 研究の目的

- (1) 異なる言語・文化・メディアを横断する複合的な視点から、現代文学・美術にみるおとぎ話の表象を比較分析することで、グローバル社会におけるおとぎ話の継承、伝播、変容の様態についての新たな考察を導き出す。
- (2) 上記の研究から得られる知見を活かして、芸術的な創作活動と連携することで、現代社会におけるおとぎ話の新たな文化的意義を、実践を通して提示する。
- (3) 上記の研究活動を通して、国際的なおとぎ話研究の理論的枠組みを日本の研究者の立場から問い直し、西洋偏重の傾向から脱して、より多文化的な視点を含む方法論へと発展させる。

3. 研究の方法

- (1) 英語圏と日本を中心に、世界各地の伝統的なおとぎ話と、現代文学・美術におけるおとぎ話の表象について体系的に理解するために、英語と日本語の文献および視聴覚資料を購入、および国内外の大学図書館や国立図書館の蔵書とデータベースを利用して収集・調査した。
- (2) 本研究に関連する現代美術作品を、日本とイギリスを中心に各国の展覧会、ギャラリー、国際芸術祭等に赴いて現地調査を行い、調査結果を蓄積して分析した。
- (3) 国内外の作家やアーティストとの対話と展覧会のキュレーションなどのコラボレーションを通して、おとぎ話の研究を文学・美術の創作との相互的に連携させ、新たなおとぎ話文化の生成の場に立ち会った。
- (4) 上記の資料調査の成果を主に英語による論文にまとめて国際学会や学術誌で継続的に発表することで、本研究を国際的な学術研究の文脈の中で展開し、文化横断的なおとぎ話研究のネットワークを構築した。
- (5) 本研究課題をテーマとする国際学術会議“Re-Orienting the Fairy Tale: Contemporary Fairy-Tale Adaptations across Cultures”を企画・実行責任者として開催し、国際的・学際的なおとぎ話研究の展望について国内外の研究者約50名と英語で討議した。同会議の成果を編著者として英語による論考集としてまとめた(2020年刊行決定)。

4. 研究成果

2015年にアメリカのウェイン州立大学出版局から刊行された単著 *From Dog Bridegroom to Wolf Girl: Contemporary Japanese Fairy-Tale Adaptations in Conversation with the West* では、現代日本文学と美術におけるおとぎ話の表象を、西洋のおとぎ話の19世紀末から現代までの日本での受容と変容の様態の特徴に着目しつつ、ポスト構造主義フェミニズムの方法論に基づき分析した。本書は学際的なおとぎ話研究の分野を先導するウェイン州立大学出版局が刊行する *Series in Fairy-Tale Studies* の叢書として出版され、欧米の民俗学と文学・文化研究に関する主要学術誌計12誌に本書の書評が掲載されたほか、イギリスの書評誌 *Times Literary Supplement* にも本書の書評が掲載され、国際的に幅広い分野から高い関心が寄せられた。

本研究課題の一環で、2017年3月に神奈川大学にて国際学術会議“Re-Orienting the Fairy Tale: Contemporary Fairy-Tale Adaptations across Cultures”を企画・実行責任者として開催し、国際的・学際的なおとぎ話研究の展望について国内外の研究者約50名と共に英語で討議した。同会議の開催には、国際交流基金の助成金を得て海外の若手研究者7名を招聘し、おとぎ話研究の今後の発展を担う次世代の研究者の育成にも貢献した。同会議の成果を英語の論考集としてまとめ、ウェイン州立大学出版局のSeries in Fairy-Tale Studiesの叢書として2020年に刊行が決定している。

上記に加えて、本研究課題に関する学会発表および学術誌と研究書への寄稿を毎年継続的にを行い、以下の「主な発表論文等」に記載した、雑誌論文3件、学会発表13件、図書6件、合計22件を研究期間中に発表した。これらの研究発表を通して、国内外の研究者と討議を行い、本研究が提起する問題に関する国際的なおとぎ話研究の分野での議論が高まった。

さらに、2015年に神奈川県民ホールで開催された鴻池朋子の個展『根源的暴力』において、美術作品の制作と展覧会テキストの執筆、および「赤ずきん」に想を得たパフォーマンスの企画と上演に美術家と共同で携わることで、批評と創作活動の連携についての実践的な知見を得るとともに、広く一般市民にも研究成果を公表した。この協働作業の過程をめぐる鴻池との対談は、鴻池著『どうぶつのはなし』(羽鳥書店、2016年)に収められている。また、2018年にイギリスのリーズ美術大学付属ギャラリーで開催された美術展“Fur Story: Tomoko Konoike”展のゲスト・キュレーターとして招聘され、展覧会のキュレーションと解説の執筆を担当した。同展覧会のキュレーションについての省察を、鴻池著『ハンターギャザラー』(羽鳥書店、2018年)に鴻池との対談の形式で掲載するとともに、イギリスのおとぎ話研究の学術誌 *Gramarye* に英語のエッセイとして寄稿した。さらに、同年に神奈川大学図書館展示ホールにて、英語版のちりめん本「日本昔噺」シリーズの展覧会を企画・実行し、一般市民を対象とする展示解説と国際シンポジウムを開催した。

これら一連の批評と創作の実践を通して、上述した本研究の3つの目的をおおむね達成し、国際的なおとぎ話研究の枠組みと射程を、より多文化的かつ領域横断的な視点を含む方向へとひろくことに貢献したとの感触を得た。

本研究に対する反応の一つに、おとぎ話研究と環境批評、特に動物表象の研究をつなぐ新たな領域を開拓している点を本研究の革新性として高く評価した書評がイギリスで出版されたことをきっかけに、男/女、西洋/非西洋という非対称的な階層秩序の脱構築に重点を置いた本研究課題を土台に、人間/動物という同じく非対称的な階層秩序を、環境批評の知見を取り入れて再考することが次なる課題として浮かびあがったことも、本研究課題の成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

1. Murai, Mayako. “Sewing Wedding Dresses for Interspecies Marriage: Tomoko Kōnoike’s Reimagining of Animal Bridegroom Tales after the Tōhoku Earthquake.” *Interdisciplinary Studies in Literature and Environment*. Vol. 26. Issue 3. Online. (2019年刊行決定、査読有)
2. 村井まや子「森と狼の(脱)植民地化：ウォルター・クレインと飯野和好による「赤ずきん」の挿絵」『人文研究』神奈川大学人文学会編、196号、2019年、pp. 99-126。(査読無)
3. Murai, Mayako. “Murmurings of Furs: Curating the Exhibition ‘Tomoko Konoike: Fur Story.’” *Gramarye: The Journal of the Sussex Centre for Folklore, Fairy Tales and Fantasy*. Issue 14 (2018). Online. (招待原稿)
4. Murai, Mayako. “Domesticating” Nature: Amy Stein’s Photographic Restaging of Human-Animal Encounters.” *Narrative Culture*. Vol. 4. No. 2 (2017). pp.153-168. (査読有)

〔学会発表〕(計 9 件)

1. Murai, Mayako. “(De)Colonising Nature through Illustrations: Illustrations for ‘Little Red Riding Hood’ by Walter Crane and Kazuyoshi Iino.” International Society for Folk Narrative Research Congress. University of Catania. 2018年6月(国際学会)
2. Murai, Mayako. “Sewing Wedding Dresses for Interspecies Marriages: Tomoko Konoike’s Reimagining of Animal Bridegroom Tales after the Tohoku Earthquake.” Thinking with Stories in Times of Conflict: A Conference in Fairy-Tale Studies. Wayne State University. 2017年8月(国際学会)
3. Murai, Mayako. “(De)Formed and Abandoned: Seizo Tashima’s Installation Based on ‘The Little Mermaid’ in a Former Dormitory for People with Leprosy.” Re-Orienting the Fairy Tale: Contemporary Fairy-Tale Adaptations across Cultures. Kanagawa University. 2017年3月(国際学会)
4. Murai, Mayako. “How to Cook a Jaguar: The Folkloric Motif of Human-Animal Transformation in the Works of Angela Carter and Ana Maria Pacheco,” The international conference “Fireworks: The Visual Imagination of Angela Carter,” Royal West of England Academy. 2017年1月(国際学会、plenary lecture)
5. Murai, Mayako. “Domesticating Nature: Amy Stein’s Photographic Restaging of Human-Animal

- Encounters.” The International Society for Folk Narrative Research and American Folklore Society Joint Conference, Hyatt Regency Miami. 2016 年 10 月 (国際学会)
6. Murai, Mayako. “The Transformations of Cinderella in Japan,” at the Centre of Literary Translation Lecture Series, University of Lausanne. 2016 年 4 月 (招待講演)
 7. Murai, Mayako. “Tales of Transformation, Transformation of Tales: Hiromi Kawakami’s ‘Tread on a Snake.’” The American Folklore Society Annual Conference, Westin Long Beach. 2015 年 10 月 (国際学会)
 8. Murai, Mayako. “Konoike Tomoko’s Wolf Girls in the Woods: Contemporary Japanese Fairy-Tale Adaptations in Conversation with the West,” at the ICU Center for Gender Studies Symposium, International Christian University. 2015 年 11 月 (国際シンポジウム、基調講演)
 9. Murai, Mayako. “Ages Heroes and Heroines in Japanese Fairy Tales,” Linking Childhood and Old Age (the international workshop organised by the Platform for a Cultural History of Children’s Media and funded by the Dutch Research Council), University of Antwerp. 2015 年 5 月(国際ワークショップ、招待)

[図書](計 6 件)

1. Murai, Mayako, and Luciana Cardi. (共編著) *Re-Orienting the Fairy Tale: Contemporary Adaptations across Cultures*. Co-edited with Luciana Cardi. Detroit: Wayne State UP (2020 年刊行決定). 総ページ 256.
2. Murai, Mayako. (共著) “The Fairy Tale in Contemporary Japanese Literature and Art.” In *The Fairy Tale World*. Ed. Andrew Teverson. London: Routledge, 2019. pp. 347-355.
3. 村井まや子 (共著) 「異類・女性・変身 アンジェラ・カーターとアナ・マリア・パチェコの作品にみる民話的変身のモチーフ」, 上原雅文編 『自然・人間・神々 時代と地域の交差する場』 所収、御茶の水書房、2019 年、pp. 97-115
4. Murai, Mayako. (共著) “Communicative Media: Photographic.” *The Routledge Companion to Media and Fairy-Tale Cultures*. Ed. Pauline Greenhill, Jill Terry Rudy, and Naomi Hamer. New York: Routledge, 2018. pp. 348-356.
5. Murai, Mayako. (共著) “Happily Ever After for the Old in Japanese Fairy Tales.” *Connecting Childhood and Old Age in Popular Media*. Ed. Vanessa Joosen. Jackson: UP of Mississippi, 2018. pp. 43-60.
6. Murai, Mayako. (単著) *From Dog Bridegroom to Wolf Girl: Contemporary Japanese Fairy-Tale Adaptations in Conversation with the West*. Detroit: Wayne State UP, 2015. 総ページ 178.

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。